

令和 2 年 5 月 15 日現在

機関番号：27104

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K13882

研究課題名(和文) 地域包括ケアシステムにおける多職種連携の方法と効果に関する研究

研究課題名(英文) Method and Effect of Collaboration between Various Professions in
Community-based Integrated Care System

研究代表者

河野 高志 (KOHNO, TAKASHI)

福岡県立大学・人間社会学部・准教授

研究者番号：50647237

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、地域包括ケアシステムにおける多職種連携を進める方法として、ケアマネジメントとインタープロフェッショナルワークの有効性を明らかにしてきた。全国の地域包括支援センターへの調査によって、ケアマネジメントとインタープロフェッショナルワークが地域包括ケアシステムにおける連携の促進要因になることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

これまで地域包括ケアシステムに関する研究は、医療・介護情報の共有化(ICT活用やツール開発)や社会資源の充実(ネットワーク化、組織化など)、制度・政策の整備といったハード面に注目されてきており、本研究のように多職種連携の方法というソフト面の研究は少ない。さらに本研究は、多職種連携の方法の検討のみならず、連携を促進する取り組みの明確化に至った点で、新たな視点を含んだ研究であるといえる。その成果は、地域特性に応じて多種多様などと曖昧にされてきた多職種連携の方法の基盤を提示するものになると考えられ、これまでの研究が示してこなかった新たな知見を得たと考えられる。

研究成果の概要(英文)：This study has clarified the effectiveness of care management and interprofessional work as a method for promoting collaboration between various professions in community-based integrated care system. A survey of Regional Comprehensive Support Centers nationwide revealed that care management and interprofessional work are factors that promote cooperation in community-based integrated care system.

研究分野：ソーシャルワーク

キーワード：地域包括ケアシステム ケアマネジメント インタープロフェッショナルワーク

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

本研究は、2014～2015年度 若手研究(B)「多分野で展開可能なケアマネジメント方法に関する基礎的研究」(研究代表者:河野高志)の成果をもとに、地域包括ケアシステムにおける多職種連携の方法の構築を目指そうとするものである。地域包括ケアシステムは、2012年度からの介護保険法改正及び介護報酬改訂によって法的根拠を与えられ、多様な高齢者向け生活施設の創設や在宅医療の推進などの追い風を受けながら近年その取り組みが各自治体で進められている。すでにモデル事業なども多数実施されており(厚生労働省ホームページ参照)、高齢者を中心とした住民が安心・安全に住みなれた地域で暮らし続けられる支援体制について実践と研究が進められているところである。しかし、地域包括ケアシステムの構築における課題として中心的に論じられる医療と介護の連携については、医療・介護に関わる情報提供・共有のシステム化(ICTの導入やツール開発)、社会資源の整備・充実(ネットワーク化、組織化、創設)、早期発見・介入による予防体制の強化、医療・介護・福祉の役割分担の明確化、制度・政策の整備・充実といった仕組みづくりに注目が集まっている。一方、モデル事業の報告書や先行研究を概観しても、多職種の連携は重要な課題にあげられているものの、その具体的な方法と効果の検証にまでは至っていないのが現状である。

このように現在、地域包括ケアシステムの構築に向けた課題は仕組みづくりというハード面での検討がなされつつあるが、多職種連携の方法というソフト面については研究が十分でない。そこで本研究では、地域包括ケアシステムにおける多職種連携の方法と効果測定の妥当性についてソーシャルワーカーの立場から検討していきたいと考えている。具体的には、ケアマネジメントとインタープロフェッショナルワーク(IPW)の視点から研究を進めるつもりである。ケアマネジメントについては、その機能にチームアプローチやネットワーキングといった多職種と協働するための取り組みが含まれており、地域包括ケアシステムのなかでも重要な役割を果たすと認識されている。また、2014～2015年度 若手研究(B)「多分野で展開可能なケアマネジメント方法に関する基礎的研究」(研究代表者:河野高志)ではソーシャルワークの多分野に共通するケアマネジメントの内容を検証しており、さらに複数の実践分野のなかで高齢者分野が最もケアマネジメントを実践していることが明らかになっていることから、地域包括ケアシステムにおける多職種連携の方法としてケアマネジメントの内容を位置づけることが可能であると考えられる。IPWはイギリスで保健医療福祉サービスを効果的かつ効率的に提供するために生まれた概念であり、利用者のニーズに合わせた質の高いサービスを提供することを目的とした多様な専門職の連携方法に示唆を与える考え方である。日本では平田ら(2004)の研究などから、IPWが利用者理解の深化、他機関との調整、情報の共有、支援方針の明確化と役割分担、専門職同士の相互支援の強化、業務連絡等に役立つ可能性があることが明らかになっている。このことからIPWについても、地域包括ケアシステムにおける多職種連携の方法の構築に役立つ概念であると考えられる。

参考:平田美和 他(2004)「インタープロフェッショナルワークにおける多職種の役割 在宅介護高齢者への介護保険サービスを通して」『埼玉県立大学紀要』Vol.6

2. 研究の目的

本研究の目的は、地域包括ケアシステムにおける多職種連携の方法の構築を目指すことである。これは、制度・政策などの仕組みづくりが重視され、実際の多職種連携を中心的に支えるソーシャルワーカーの方法論にまで関心が及ばなかったことへの着目である。具体的には、ケアマネジメントとIPWの視点から、多職種連携の枠組みとそこでのソーシャルワーカーの取り組み、さらに連携の効果測定について検討していく。そのために、まず全国の地域包括支援センターを対象に予備調査を行い、多職種連携の現状と課題を整理する。そのうえで、多職種連携の枠組みと展開方法、効果測定の指標を作成する。そして、事例研究によって多職種連携の方法と効果測定指標の妥当性の検証を行い、その構築を目指す。

3. 研究の方法

本研究では、地域包括ケアシステムにおける多職種連携の方法と効果に関する構成要素の検討を行うため、先行研究の分析(文献研究)を行った。次に、全国の地域包括支援センター(5,053か所)を対象にアンケート調査を行い、多職種連携の促進要因と連携状態の指標、地域包括ケアシステム構築における多職種連携の課題を明らかにすることをした。

4. 研究成果

まず、地域包括ケアシステムにおける多職種連携の方法について、ケアマネジメントとIPWが有効な方法となることを明らかにした。ケアマネジメントは従来、利用者のニーズに合わせた社会資源の活用やチームアプローチ、ネットワーキングを特徴とする支援方法であり、IPWは多職種間の効果的な連携に特化した概念であり、これらを組み合わせて展開することが地域包括ケアシステムにおける多職種連携を進める上で有効であると考えられている。

そこでこれを踏まえて、全国の地域包括支援センターへのアンケート調査から、地域包括ケアシステムにおける多職種連携の促進要因を明らかにした。この調査からは、連携(linkage)・協調(coordination)・完全な統合(full integration)の概念を統合した連携の指標に対して、

ケアマネジメントとIPWが促進要因となることが分かった(図1)。具体的には、ケアマネジメントとIPWはチームワークの促進を進めることで、地域包括ケアシステムにおける連携の状態を向上させるという関係である。また、ケアマネジメントとIPWには正の相関関係があり、これらを組み合わせるための相性の良さがあるということも明らかになった。

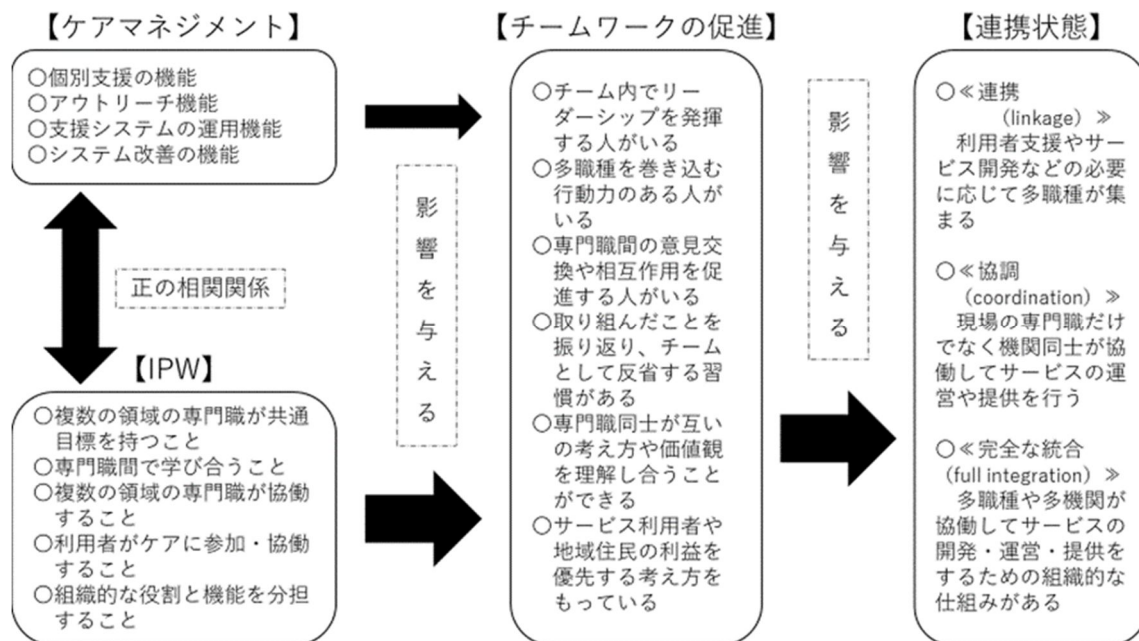


図1 多職種連携におけるケアマネジメントとインタープロフェッショナルワークの関係

この調査では、地域包括ケアシステムを構築する上での課題についても自由記述で尋ねており、それを分析した結果、ミクロ・レベルでのケアマネジメント(地域ニーズの把握や地域の実情に応じた社会資源の開発など)とマクロ・レベルでのケアマネジメント(ケアシステム構築の方針や目的・手順などを検討し、計画・実施するなど)を循環させることと、そこでの行政・専門職・地域住民によるIPWに基づいた連携が重要な課題であることが明らかになった。地域包括ケアシステムでは、行政・専門職・地域住民が協働して地域づくりに取り組む必要があるが、それぞれが円滑かつ効果的に連携するには考え方や価値観の違い、業務や役割の多忙さ、知識や技術の差といった問題を乗り越えなければならない。しかし現状ではそれが上手くいっていない自治体や地域もあり、IPWの必要性が相当程度あるということがわかった。また、地域の様々な社会資源を活用するだけでなく開発することも視野に入れてケアシステム構築に取り組まなければならないため、現場レベルでの取り組みだけでなく地域全体を捉えた視点から支援体制づくりを計画する上でも行政・専門職・地域住民の連携は不可欠である。こうした状況では、ミクロ・レベルからマクロ・レベルのケアマネジメントの展開によって地域ニーズと社会資源を効果的かつ効率的に結びつけることを、多様な主体(行政・専門職・地域住民)の協働によって行うことになるため、IPWによって連携の状態を高めながらケアマネジメントを行うことが課題になっていると理解できた。

本研究ではこのように多職種連携の方法と連携の状態を捉える指標を明らかにし、地域包括ケアシステムにおける多職種連携の具体的な状況を踏まえて課題を整理した。当初計画していた連携の方法と効果の検証までには至らなかったが、これまで明らかにされてこなかった多職種連携の促進要因(ケアマネジメントとIPWの貢献)と連携状態を捉える指標(連携(linkage)・協調(coordination)・完全な統合(full integration)の概念を統合した変数)の検証は完遂しており、研究計画全体をみると概ね当初予定していた内容の成果が得られたと考える。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 河野高志	4. 巻 第26巻第2号
2. 論文標題 地域包括ケアシステムにおけるケアマネジメントとインタープロフェッショナルワークの可能性	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 福岡県立大学人間社会学部紀要	6. 最初と最後の頁 37頁-53頁
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
---------------------------	-----------------------	----